



第 70 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

天守台編集委員会

TEL (0761) 21-6330

昭和44年春、私は小松高校に入学しました。電車通学のため、通学路は小松駅から芦城公園を通るルートであり、桜が満開の中、高校生活の第一歩を踏み出したのを鮮明に記憶しております。

ちょうどその頃、米の減反政策が国策として始まりました。戦後の食糧不足の時代は増産一辺倒であったものが、米が余るようになったことから、米の生産を抑制する政策に180度転換し、近年まで50年以上形を変えながら実質的に継続されました。



年頭所感

『令和の米騒動と食糧安全保障』

元石川県農業協同組合中央会

代表理事会長

西沢 耕一(高24回)

放出し、米農家も米の生産を増やし対応しましたが、米の価格は大幅に上昇しました。

消費者目線からすれば、ここ一年あまり、毎日食べる米が十分に買えず、価格も高く、不満を持つ状況にありません。一方、米の生産者の目線では、ここ数年、農機、肥料、農薬等生産資材の価格上昇が続く中で、米の価格はその間ほぼ右肩下がり経営の維持も厳しい中で、やっと一息ついた状況にあります。消費者にとっては、日々食べる主食として容認できる価格、生産者にとっ

そのような中、令和6年夏から秋にかけて日本人の主食である米が不足し、スーパーや米屋の店頭で米が無くなる前代未聞の事態が発生しました。

一部マスコミ、ネット世論等で米卸やJAの売り惜しみがこのような状況を招いたとの報道もありますが、それは、まったくの事実誤認であり、原因は、政府の需給見通しの誤り、夏の高温障害による米の品質低下に伴う歩留まり悪化、インバウンドの増加等が原因だと言われています。その影響は、令和7年にも及び、国は備蓄米を

ては、再生産できる適正な価格との折り合いを日々の経済活動の中で実現するのが一番の課題です。

「生きることは食、食べること」その食を支えているのが農業です。その農業の現状は、主食である米においてすらこのような状況が発生し、米に限らず、畜産、酪農、園芸等においても所得確保が厳しく、農家数、耕地面積の減少が続いており、非常に厳しい状況です。また、食料自給率米の自給率はほぼ百パーセントですが、全体では、カロリーベースで約38%です。食料の60%

強を海外からの輸入に頼っており、G7各国の中でも一番低い状況にあります。スーパーやコンビニエンスストアの店頭には食料があふれ、食品残渣が問題となる世情、食料危機など遠い国の話だと思われませんが、現下の世界情勢の下、外交、衛の安全保障、経済安保はもちろん重要ですが、食料の安全保障においても、それに匹敵するくらい重要だと思えます。ただ、食料安保の現状については、家畜の飼料や、作物を栽培するために必要な肥料原料の大半を輸入に頼り、米でさえも少しの異変により米の現物が一時店頭から消えるなど、非常に脆弱な状況にあります。

世界的異常気象、大災害、〇〇有事等、いつどこで何が起きるかわからない状況の中で、必要とする食料について、輸入に頼ることなく、国内で可能な限り生産するべきだと思えます。日本の気候、国土の地理的条件を生かした二千年の歴史がある稲作をはじめ、日本各地には世界に誇れる農産物が数々あります。日本農業の特性を活かして、就農者を確保し農業所得の増加をはじめ、産業として魅力的な農業を実現することが必要です。

今春、十五の春を迎える新入生を小松高校も迎えます。その子供達はもちろん、子々孫々に至るまで、飢えることなく、安心できる食料安全保障を確立する農政を期待してやみません。

高校の思い出



陶芸家

4代目 徳田 八十吉(高34回)

小松高校の思い出は?という  
と、やはり部活と体育祭ですか  
ね。一年生から、バレー部に入  
り、鬼の寺田コーチに、放課後  
毎日しごかれました。と言っても、  
私達部員は陰で「ダラテ、ダラテ、  
ダラ」と茶化していたものでは  
。夏休みも部活に励み、終わ  
ると「みなとや食堂」で、タヌキ  
うどんを分け合って食べたもので  
す。私は、襲名前「順子」とい  
う名前でしたので「順婆さん」↓  
「ジユバ」というニックネームで  
呼ばれていました。実は、ボー  
ルが恐くて、あまり上手ではな  
かったんですが、皆「ジユバ、ジユ  
バ」と言って仲良くしてくれたの  
が嬉しかったです。目的は「チー  
ムに入る!」でしたから。最近、  
久しぶりに同窓会に行くように



なつて「ジユバ!!」ってかつて  
の仲間たちから声をかけられた  
のには、本当にびっくりしました。  
学校の勉強は、理数科でのん  
きな性格なので「そのうちやる  
う」と思っていたら、化学・地学・  
物理・数IIIなど0点で落ちこぼ  
れていたし、好きだった彼氏とは  
別れ、アメリカに留学したし、  
大切な親友ともいざこざがあり、  
嫌われてしまいました。クラスに  
は女性たった三人。男の子た  
ちは、シャイでがり勉。ほとんど  
話さずその分部活や体育祭の応  
援団、当時習っていたお茶やお  
花やお琴にのめり込んで行ったの  
かもしれません。

卒業後、アメリカニューヨーク  
州ジェームスタウン高校に留学し  
ました。あちらの高校は、日本  
とは大違い!!英語のクラスもでき  
る子から五段階くらいに別れてい  
て、できるクラスはスピーチした  
りしてホンマカッコイイ♥私は、  
一番できないクラス。一番前のク  
ラスメートの男の子は椅子に座り  
机の上に足を放り上げ「おい、  
先公」みたいな口調と態度でし  
た。できないならできないなりに  
学校の中の物販を販売するクラ  
スやドライバースライセスを取  
得するクラス、アートも、油絵・  
習字・スタジオアート(基礎)等  
色々あったり、「アカパラクワイ  
ヤー」と言つて、クリスマス時に  
教会で歌う歌を一年間練習し、  
本番では教会などで歌うクラス  
があったり、その人その人の好み  
目的・能力にあった授業を組め  
るのが特徴でした。私は英語・  
水泳・タイプ・アカパラクワイ  
ヤー・一時間休憩・スタジオアー  
ト・カリグラフィ(習字)の7  
限を組みました。毎日同じこと



今も、アメリカのホストファミ  
リーと年に一度クリスマスカード  
をやり取りしています。目の色・  
髪の色・皮膚の色・言葉が違つて  
も人間は分かり合える。学歴社会  
年功序列・終身雇用、これらに  
疑問をもつたのはこの頃でした。  
A1という言葉はほんの2年

を  
するのですから上達するはずで  
す。と言っても下手くそな私の歌  
をクリスマスソロパートに入れ  
てくださったり、今思つと留学  
生は随分優遇されていたのもし  
れませんか。英語はお子様英語  
で分からないことは簡単に言い換  
えて一年過ごしたのでボキャブラ  
リーは全く増えずちつとも上達  
しませんでした。その代わりホス  
トファミリーや周りに可愛がられ  
一番大切な何かを学んだ気がし  
ています。もちろん日本人は私人  
友達や彼氏と別れてきたもので  
すから、ホームシックで泣き続け  
た夜もありました。でも女つてゲ  
ンキンなものです。ガラスにし  
か見えていなかった「青い目」が  
美しいと思つたり、恋したり。:  
あー、あの頃の悩みやときめ  
きが懐かしい。いつたいあのとき  
めく心、どこいっちゃったんで  
しょうね?」

今も、アメリカのホストファミ  
リーと年に一度クリスマスカード  
をやり取りしています。目の色・  
髪の色・皮膚の色・言葉が違つて  
も人間は分かり合える。学歴社会  
年功序列・終身雇用、これらに  
疑問をもつたのはこの頃でした。  
A1という言葉はほんの2年

前には誰も使わなかった。今、スマホは必需品、AIという言葉が聞かない日はない。時代がものすごいスピードで変化していく。私は6年前がんとを患い、昨年一月二日、和倉温泉にいて能登半島地震で被災しました。病氣や地震は、私を強く大きくしてくれました。私を強く大きくしてくれました。残りの人生、感謝とご恩返しを考え、人間に生まれ変わったかも。同窓会にも出席させて頂けるようになりまし。この度、このような機会を頂戴致しました。ありがとうございます。

### 筑波大学 システム情報系教授 研究分野情報セキュリティ



面 和成 (高45回)

今年高校受験を迎える。机に向

かい、黙々と勉強に励む娘の姿を見てみると、不思議と自分自身の中学時代にタイムスリップするような感覚にとらわれる。あの頃、私は小松高校を目指して必死に勉強していた。当時の記憶は今も鮮明だ。中学1年の学期末テストで、国語がまさかの19点という信じられない点数を取ってしまったことが転機だった。悔しさや情けなさが入り混じり、「自分を変えたい」という思いが心の奥底から湧き上がった。それからの私は、まるで何かに取り憑かれたように勉強に没頭した。

参考書を開くたびに、新しい知識が頭に入ってくる感覚が楽しく、次第に勉強そのものが喜びへと変わっていった。知識を吸収することの面白さを初めて実感したのもその頃だった。今振り返ると、あの時期の努力は単に成績を上げるためのものではなかった。自分を客観的に見つめ、自分の弱点を分析し、それを克服するための戦略を立て、そして実行する——その一連の過程こそが、人生のあらゆる挑戦に通じる貴重な経験だったのだと思う。目標に向かって努力を積み重ねるといふ習慣は、その後の人生の「リベンジ」の

基礎を築くことになった。

今の私は、筑波大学でサイバーセキュリティを専門とする教授として働いている。サイバー空間の安全性を高め、人々が安心してインターネットを利用できる社会を実現することを目指して、日々研究に取り組んでいる。大学教員という仕事は一見華やかに見えるかもしれないが、実際は非常に多忙で多面的だ。授業や学生の研究指導といった教育活動に加え、論文執筆や学会発表などの研究活動、さらには入試業務や人事委員会などの大学内の運営業務、学外での委員会活動、書籍の執筆など、仕事は多岐にわたる。これまでに専門書を1冊、翻訳書を1冊出版し、現在は一般社団法人日本暗号資産等取引業協会の理事、ブロックチェーンセキュリティワークショップの実行委員長を務めている。土日も仕事に追われることが多いが、それでも自分の好きな研究に打ち込める環境にいることは幸せだと感じている。

50歳を過ぎた今、これまでの歩みを振り返る中で、新たな夢がはつきりと見えてきた。それは、長年培ってきたセキュリティに関

する研究成果を社会に還元し、より安全で安心できる社会を築くことだ。その夢を実現するため、私はすでに二つの取り組みを始めている。ひとつは、大学時代の友人とともに今年立ち上げた「株式会社ソーシャルパス」である。サイバーセキュリティ分野で社会に貢献することを目的とし、私は取締役として経営に参画すると同時に、CTO(最高技術責任者)として技術面から事業を支えている。もうひとつは、子どもたちへのセキュリティ教育活動だ。高校時代の友人と協力し、2022年から毎年、小松市で小学生を対象にしたセキュリティセミナーを開催している。子どもたちが正しい知識を持ち、サイバー空間の危険に自ら対応できる力を育てることは、未来への大きな投資だと信じている。

今の私は、研究者であると同時に、社会に恩返しをする実践者でありたいと願っている。若き日の「19点」という失敗から始まった私の挑戦は、今なお続いている。自らの学びを社会へつなぎ、次の世代へとバトンを渡す——それが、これからの人生で果たすべき使命だと感じている。

小松高校卒業生、初の真打落語家を目指して



落語家 桂 空平治(高62回)

落語家「十一代 桂文治」入門して早くも6年が経った。入門時の年齢は27歳。世間一般で見ればちょっとした組織を任せられ、ばりばり働いて自分を育ててくれた企業に還元していき、社会に貢献していく年頃だろう。僕は早々に脱落した。人生で一番初めの挫折を味わったのは、小松高校在学中。それも入学してすぐである。中学生時代はテストで9割以上の得点率を確実のものとしていた僕は、自分に対し何の疑いもなく、絶対の自信を持って意気揚々と小松高校に入学した。憧れの、夢の高校生活の始まりだ。まずは彼女を作ろう。隣の席の女子が可愛ければ絶対に逃さない。クラス、いや学年で一番の美人を射止めてやろう。そんな決意を胸に登校し、初日の授業でそんな考えは吹き飛んだ。まったくと言って良いほど、先生の話が理解できない。本当にこれまで僕たちが使っていたのと同じ言語で話しているのか疑うほどに意味が分からなかった。特に印象的だったのは数学の授業だ。授業は初回にも関わらず、教科書の30ページだか60ページだかを開かせて、

いきなり解説が始まり、問題を解かせ始める。30ページだろうが60ページだろうがそんな事はどうでも良い。物事には順序というものがある。教科書というものは最初から順を追って読み込んでいけば、基本的には最後のページの問題も解けるようになっていく。当たり前だ。国の偉い人たちが叡智を集結して作り上げられているものなのだから。それをいきなり、初日から、何章も飛ばすぞというのだ。近くの座席にいる同級生の顔色を見て何やら動揺の素振りはない。まさか、僕だけが置いて行かれているのか。いや、もしかすると母校である辰口中学校では教わってない事があるのかもしれない。そんな事はあつてはならない。同校出身者の友人に確認するも、なんの違和感もなく小松高校の授業に順応している。何が起きているのか、わからないふりをしていた。

そう、僕は春休みの宿題をやっていないかった。入学前に、自習しておくように通達があった。しかし僕はそれを放置していた。これまでずっと、授業で一度聞けば理解できたからと、たかを括っていた。高校で多少内容が難しくなっても、何の問題もないだろうと。慢心だった。自分で教科書を噛み砕き、学び、習得する。それを当たり前前に求められるのが我が母校、小松高校であった。その30ページだか60ページだかの遅れは卒業まで取り戻すことは出来なかった。あつという間に僕の落ちこぼれの3年間は終わった。

進路相談では名前を書けば入れるような大学しか受からないと言われ、その願書を持ち帰ったら父親からはそんな行きたくもない大学に行くくらないなら漁船に乗れ。働いてこい。と言われた。尚、小松高校を受験し失敗した父の最終学歴は某有名私学高中中退である。僕にはそんな過酷な仕事に就く勇氣はない。予備校への進学を希望した。あんたが予備校？行つてどうするの？と担任には鼻で笑われた。今になって思えば、その反応も理解できる。僕は勉強が苦手なのだ。というより、そもそもじっとしていないのだ。その後は二浪し、大学は卒業するのに5年かかった。じっと座って、真面目に勉強が出来るなら、こつはならない。よく、「生き急いでるね」と言われる。人生は一度きりである。だから、やりたい事は全部やる。行きたい所は全部行く。夢はどうすれば叶うか、やってみる。出来るだけたくさん景色を見てみたい。

その点、落語は素晴らしい。ここからようやく落語のお話。落語家が観る景色、つまり客席には毎日違うお客様がいます。新宿、浅草、上野、池袋、都内の客席にはそれぞれ空気感があり、地方にもまたそれぞれ町の匂い、その雰囲気がある。日々刻々と変わるその様子は、まるで空模様のように感じる事がある。自分の口から発された言葉や音や無音の間、身体の一つひとつの所作、動き、静止、それらが全て噛み合った時、客席はとても清々しい表情を見せてくれる。反対にそれらの何かひとつでも狂つと、その空模様は一瞬にして荒れる。

その緊張の糸を、緩めぬように、切らぬように、釣りの感覚だと師匠文治が教えてくれた。釣りは分からない。やはり一度、漁船に乗った方が良かったか。

次は客席から見た景色の話。座布団に座ったオッサンが、右向いて左向いて、たまたま扇子や手ぬぐいをういながら、たまたま喋っている。ただこれだけ。にも関わらずそこに何人も若者が見え、お屋敷があり、艶やかな花魁が出てきて汗水流して働く男達や親方衆が見えてくる。そんなはずはないのに、そう見えるのだ。終わって観客同士で話してみると、見えていたものがそれぞれ違う。それで良くて、それが正解。落語は自由だ。どう見えるか、どう感じるか、何を見るか、お客様の想像力に全てを委ねる。我々噺家は、そのお手伝いをしているに過ぎない。落語を聴き、その情景を想像する時、お客様は自由だ。その瞬間、日常の悩み、恨みを忘れて気が付いたら自分の描いた映像で笑っている。そんな瞬間を感じてもらいたい。



同窓会だより

第14回関西小松同窓会  
——会員増の取り組み

関西小松同窓会

副会長 二木 一夫(高33回)

関西小松同窓会は2025年10月4日(土)、大阪市中央区にあるホテル日航大阪の大宴会場「鶴の間」で、第14回総会・懇親会を開きました。コロナ禍の22年10月以来3年ぶりの開催に、石川県のほか、関東、東海、四国など関西外から参加した同窓生を含めて145人が集まりました。

前回の総会以降、執行部が取り組んだのは若手会員の増員でした。若手と言っても、40代、50代。この年代の参加が少ないのが将来に向けての課題。幹事のいない卒業回が多いということも解消したい問題でした。そのため、50代より若い会員には新年会や暑気払いの参加費減額や、役員に抜擢する策を取り入れました。さらに、真原多佳子副会長(高25回)が中心になって、連絡先が判明している同窓生一人ひとりに入会を促す手紙を送り、電話で幹事就任をお願いするという地道な作業を続けました。

一方で、積極的に情報発信をすればこの同窓会の存在に気づく卒業生がいるはずだと考え、中山雄二会長(高21回)がホームページを制作し、24年5月に開設しました。過去の総会の内容のほか、役員幹事会の様子、各卒業回の同期会開催状況など多くの情報を載せています。どうぞ、「関西小松同窓会」でインターネット

検索をしてみてください。

今回の総会では、高35回以降の同窓生には、QRコードから出欠を回答してもらう運用も始めました。デジタルの時代に対応する仕組みをこれからも考えていきます。

また、会員から会費を徴収する制度を見直しました。会の事務連絡や運営費に活用するのを目的として、名称も「サポーター費」に変更し、支払いは任意としました。

こうした努力が実り、高35回以降の幹事がいる卒業回は、前回時点の9回から19回に倍増しました。さらに、今回の総会・懇親会の出席者も前回の12人から25人へとこれまた倍増。60代以上の分厚い層に負けない若手会員の奮闘が今後期待できる成果が出たと思います。

さて、午後1時に始まった総会・懇親会。まず、高校時代に同じ音楽部だった林龍太郎さん(高30回)と池上久乃さん(高32回)のデュエットによる「故郷」(宋冠は君に輝く)の歌唱で幕開けです。総会では、物故者の黙とう、中山会長からの歓迎のあいさつに続き、会計・監査報告、会則改定の報告、新役員の紹介があり、いずれも拍手で承認されました。最後に、新しく会長に就任した井尻潔副会長(高26回)があいさつし、「親しみやすく活気ある同窓会に」と抱負を語りました。



関西小松同窓会 新役員

令和7年10月4日

役職	氏名	任期
会長	井尻 潔	26回 新任
副会長	川端 徹	29回
副会長	二木 一夫	33回
副会長	梅崎 寛美	34回 新任
副会長	和田 靖男	34回 新任
副会長	坂田 俊明	36回 新任
会計	関野 映子	31回 新任
会計	魚津 伸也	29回 新任
会計監査	佐伯 俊博	23回
会計監査	谷口 文彦	25回
運営役員	中川 弘	9回
運営役員	濱本 薫男	13回
運営役員	宮崎 圭子	13回 新任
運営役員	米田世紀子	14回
運営役員	徳田 裕平	24回
運営役員	真原多佳子	25回 新任
運営役員	金井 謙介	29回
運営役員	石川 英司	33回
運営役員	田畑 知之	34回 新任
運営役員	小西 啓介	35回 新任
運営役員	二輪 義人	37回 新任
運営役員	森田 陽子	37回 新任
運営役員	中森 拓也	40回 新任
運営役員	嶋崎 雅嘉	41回 新任
運営役員	浜中 邦弘	41回 新任
運営役員	吉田 幸恵	42回 新任
運営役員	水戸 清喜	43回
運営役員	山本祐太郎	52回
名誉会長	中山 雄二	21回 新任
相談役	西居 厚	11回
相談役	嶋 喜八郎	14回
相談役	梅野 外次	19回 新任
顧問	北岸 松男	7回 新任
顧問	宮崎 一也	8回

懇親会に入り、小松同窓会の和田学会長(高33回)が祝辞の中で、4年後の29年に小松高校創立130周年記念式典が行われることを明かし、馬場智子校長(高37回)からは在校生の学業や部活動の報告がありました。井出敏朗・能美市長(高33回)による乾杯の発声で歓談タイムが始まり、各テーブルとも、なつかしい顔との再会に話を弾ませていました。今回の最高齢参加者は高校5回の田畑睦子さん。関西小松同窓会からのサプライズプレゼントとして、九谷焼作家・福島礼子さんの招き猫を贈呈しました。お待ちかねの大抽選会の景品は、小松のおみや物産セット、九谷焼、ギフト券に自衛隊カシメなど。90人近くが当選しました。懇親会の終盤には全員で校歌を歌い、関西小松同窓会の角英夫会長(高31回)の発声で万歳三唱し、閉会しました。

終了後、ステージで記念撮影。3年後の再会を誓い散会しました。



第14回関西小松同窓会総会



同窓会だより

### 関東小松39会同窓会

道場 正弘(高16回)

昭和39年小松高校卒業生のうちで、関東一円に居住する有志で、関東小松39会なる組織を作っております。若いうちは四年に一度程の集まりでしたが、還暦を過ぎたころからは、小松弁忘れ難く、コロナ騒動の数年を除いて毎年、連絡を取り合せて集まっております。今年も七月七日、七夕の日に西浦天宮君が理事長を務める病院のレストラン(サン、ミケー)に集合いたしました。今年は傘寿を迎える年と云う事で、何と小松、富山、京都からの飛び入り参加もあり、三十名の大盛会となりました。

世話役松本斉君(読売新聞・テレビ金沢)が言うには、明治維新から、我々16回生が生を受けた戦の年、昭和二十年までの年数と我々の生きた今日までの年数は殆ど同等だとの事。先の約80年は日清、日露・大東亜と続く戦争で数百万の日本人が命を落としている。しかるになんと我々の生きた今日までの約80年は戦争での落命者はゼロである。

これは神武天皇以来の長い日本史のなかでも稀有な事であり、我々昭和20年生まれは、そうした平和な時代を生きた奇跡の世代なのだ。勿論三島由紀夫のように、これを平和ボケ、精神弛緩の時代と評するむきもあるが、いずれにしても奇跡の時代を生きたことには間違いないのです。また宇宙物理学者ホーキング博士はホモサピエンスは遠くならず滅

亡の道を辿るだろうと不吉な予言しております。その根拠は高度に進化した科学技術の反乱にあると言っています。その最たるものが核兵器と温室効果ガスであろう。しかるに我々はその悲劇を見る前に天に召されるであろう。まさに奇跡の時代を生きたのだ。

当日は会場にピアノがあり、世話役山下修君(株山王)の(折角だ、ピアノ伴奏で校歌を歌おう)との提案があり、母校の音楽担当教諭田村桂子様のお手を煩わせ、ピアノ伴奏用楽譜を送って頂きました。平川孝子さん(世田谷区中学教諭)のピアノに合わせ校歌(朝夕仰ぐ白山や...)を高らかにを歌い、来年の再開を誓い閉幕した次第です。



同窓会だより

### 卒業六十周年記念「最後の同窓会」

杉林 憲治(高17回)

高校卒業六十周年の節目を迎えた十七回生の最後の同窓会は令和七年十月二十九日、北前船をイメージしたウレシヤス小松で開催されました。

コロナ禍等でなかなか開催出来ず、来年には八十歳を迎えることから同窓会開催の問合せが聞こえて来るようになりました。有志で準備会を開いて意見交換を行い、高校卒業六十周年という大きな節目を迎えることから開催することを決定。前回から七年間のプランクがありました。十四名で実行委員会を立ち上げ、開催日時、会場の選定、会費、各自の担当を決めました。

しかし、往復はがきを発送したところ、今までより出席の返事が伸び悩み、目標にしていた八十名の参加が危ぶまれました。そこで各自手分けして返事のない人に参加を呼び掛け、その効果があつて八十八名の出席となりました。一方で五百九名の同級生のうち、百五名が亡くなっていることが判明。人生百年時代と言われている中で予想以上の人数に驚かされました。

当日はさわやかな秋晴れに恵まれました。記録的な猛暑を耐え抜いた字友達は再会を喜び合い、あつという間に六十年前にタイムスリップ。ロビーのあちこちで大きな輪が出来ました。開会に先立って全体の集合写真の撮影引き続いて物故恩師、物



↑スクリーンに映しだされる歌詞と写真を見ながら校歌斉唱



2025/10/29 会場:ウレシヤス小松

↑ 2025/10/29 会場:ウレシヤス小松

故同級生の顔写真が大型スクリーンに映し出され、代表した二人が弔意を述べ、全員で黙禱して心から、冥福を祈りました。

懇親会の開会にあたり、私から「今日は最後の同窓会です。何の忖度もなく、語り合える事は人生の最高の幸せです。六十年前の高校時代に帰り、断捨離出来ない山ほどある青春の思い出や歩んできた人生の経験を中心に語り合います」と挨拶。乾杯の後、担任だった竹部義晴先生と井口哲郎先生から頂戴したメッセージが披露されました。想い出アルバムでは修学旅行、運動会、ポートレースの写真が次々と写し出され、「なつかしい」「みんな若い」との声が上がります。会場は大いに盛り上がりました。

クラス別の写真撮影が行われた後、恒例の校歌斉唱と定番になっている舟木一夫の大ヒット曲「高校三年生」を皆が肩を組んで大合唱。閉会の挨拶は米国で十数年住んでいた山本憲雄君の流暢な英語で会場を沸かせ、お開きとなりました。「本当にこれで最後か」と惜しまれる同窓会になりました。

同窓会だより  
**第21回生同窓会報告書**  
 代表世話人 渡辺 正 (高21回)

20世紀の真ん中に生まれ、昭和44年3月に小松高校を卒業した21回生。トランプのブラックジャックの最高の数字「21」21世紀に羽ばたこうと我々の未来をみすえて「小松21世紀の会」と名付けました。江戸の仲間たちは、現在も「関東小松21世紀の会」と言っています。

70年安保、受験期には、東大闘争(安田講堂事件・1969年1月機動隊8500人が導入)による学園封鎖と混乱のため、佐藤栄作政権は東大の入試中止を決定、東京教育大学(現筑波大学)も学生運動の拠点とされていたため入試が中止されました。

その年から大量の大学浪人が発生、予備校が増え始めた。東大を諦めたと言う「自称東大挫折派」の同級生も多く居ました。前代未聞の出来事、あの混乱の中で我々は未来への希望と不安を抱えながらも青春を駆け抜けました。深夜ラジオを聞きながら、ビートルズに夢中になりながら。



2025年、26年皆足並みをそろえて、75歳の年齢になります。輝かしく爽やかなある75歳になろう。頑張って生きていこう。美しく老いていこう。そのベースを16歳、17歳、18歳の小松校時代にタイムシフトして探そう。同窓生の出合い語らいが大きな活力となるのではないかと。

同窓会の目的とサブタイトルは「後期高齢者になることを記念して集まろう!」  
 昨年の8月帝国ホテルで行われた東京の関東同窓会の2次会において3年7組の岸野一広と3年6組の大杉忠夫が発案し、3年4組の渡辺が代表を依頼された。それ以来、世話役を決め春から具体化していった。同窓会案内に同封した返信はがきをベースに、参加者、物故者、宛先不明者の名簿を作った。クラス別の近況報告集は大変な編集作業。

11月8日(土)ウレリヤス小松(こまつ)北電ホールで13時にスタート、95名が集まった。15時に終了。2次会はラীগコビアンコで80%が集まった。3次会のカラオケ会は20名位だった。小松高校21回生近況報告集が秀逸で出欠のはがきをまとめた。流石に後期高齢者となるが書いてある近況が、具体的かつ深刻で、「体調不良で、医者通い」「認知症になりました」「妻が、夫が、亡く

なり代理返信」「老老(親の)介護で」「畑仕事、趣味の世界で、孫守り」  
 同窓会に出席出来る95名はまだまだ幸せだと実感します。卒業時437物故者49宛先不明など56。337名に案内状出して返信は230。そのうち出席は95名。6年前は98名だったので、

良く頑張った数字です。  
 我々は封書、はがきを使ったが、LINE、Facebook等SNSを活用しようということになった。時代の流れについていかねばならない。しかし今回の同窓会は未定。  
 我々の同窓会の様子はYouTube「第7回小松高校卒業21回同窓会」に載っています。

**令和7年度 小松同窓会 [会計決算書]**

収入額.....4,255,292円  
 支出額.....3,880,843円  
 翌年度繰越額.....374,449円

(単位:円)

◆収入の部				
科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘要
会費	3,040,000	3,040,000	0	令和5年度卒業生 304人×10,000円
繰越金	489,070	489,070	0	
同窓会運営基金	603,500	603,500	0	青雲の小径維持管理費(418,000円)等
雑収入	121,630	122,722	1,092	令和5年度卒業生記念館等管理費304人×400円、預金利息
計	4,254,200	4,255,292	1,092	

(単位:円)

◆支出の部				
科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘要
総会費	120,000	104,100	15,900	総会諸費用
卒業記念品	360,000	357,500	2,500	卒業記念品代
通信事務費	120,000	121,889	△ 1,889	各諸行事開催案内、各委員会・理事会等案内送料 等
渉外費	130,000	124,571	5,429	事務局電話料、新聞広告代
業務委託料	1,092,660	1,092,660	0	事務局業務年間委託料 等
会報事業費	370,000	408,687	△ 38,687	会報「天守台」67・68号発行経費 等
記念館事業費	200,000	253,442	△ 53,442	記念館特別展開催経費 等
記念館管理費	200,000	200,000	0	大規模修繕等記念館管理費積立
会合事業費	250,000	193,222	56,778	理事会・幹事会経費 等
青雲の小径再生事業費	418,000	418,000	0	青雲の小径年間維持管理費
一般事業費	670,000	496,752	173,248	事務局備品・消耗品・ホームスクールカミングデイ開催経費等
雑費	200,000	110,020	89,980	慶弔費、小松同窓会同期会開催補助金、新年会打ち合わせ経費
予備費	123,540	0	123,540	
計	4,254,200	3,880,843	373,357	

# ホームスクール カミングディ

宝田 真意(高36回)

11月1日時々雨が降る天候の中、ビンの館には44名の36回生が40数年の時を経て、階段教室に集合しました。階段教室に入った瞬間、私達は学生時代にタイムスリップした気分になりました。

講師として3-4Hの担任、野球部顧問や部長を務められました伊藤充先生をお迎え致しました。まず和田学小松同窓会会長、馬場智子小松高校校長(高37回)よりご挨拶を頂き、講義が始まりました。

伊藤先生は広島大学を卒業され、言学校の勤務を経て、5年目に本校に赴任されました。

先生は私達の2年時に本格的に野球に打ち込むため担任を外れ野球部部長となり、毎試合アナウンスやスコア付けもされ、熱心なOB会や保護者会の応援は、県外遠征のバス代も赤字に仕上がったとお伺いしています。

(当時の部費一万円は高額だった様です) その5年後(昭和61年)には見事甲子園初出場。惜しくも高知商に延長10回3-4で敗れました。

今回の講演は、「数学と野球と36回生」という題目であり、先生がこれまでの人生で心血を注いで来られたテーマです。

数学については昔の授業の様に黒板に図を描いて丁寧に説明され、昔の記憶が少しずつ蘇って来ました。私は理系だったので数IIIまで習いました。今では



微分・積分の式等は残念ながらほとんど忘れてしまいましたが、少しでも思い出そうと必死で先生の話を聞いていました。そういえば私達が在学中大変悩まされた恐怖の問題集のオリジナルはもう使用されていないとのこと。当時のオリジナルは解答しか記載されておらず、解答に至るまでの過程を色々と考えさせる意図があった様です。そうすることで問題解決のレベルアップを図るということでした。

野球については大リーグに大変造詣が深く、野球の競技の始まりや大リーグのチーム名の由来など詳しくお話ししていただきました。

普段野球の試合に着用するソックスとストッキングの違いなど私達が見逃しがちなテーマについても詳しく解説していただき、興味深く聞かせていただきました。

後は36回生が中心だった昭和58年には成績が振るわなかったため、前後の学

年に比べて練習量を多くしたと懐かしそうに語られていました。

36回生については、前後の学年も含めて良く勉強したと言っておられました。私自身あまり勉強した方ではありませんでしたが、他の36回生が成績優秀だったため、その様な印象を持たれたのではないかと思っております。非常に喜ばしいことです。

先生は高校37年、石川県高野連理事5年、金沢工業大学13年を勤められました。今は原点に立ち戻り月二、三回東京へ行き音楽会やお芝居を楽しまれているとのこと。

校歌斉唱の後、福島知朗同窓会副会長より閉会のご挨拶を頂きました。同窓会の皆様や久間真先生(高35回)、事務局の谷口奈穂子さん(高50回)にも大変お世話になり感謝致しております。

同日ウレシヤス小松で開催の同窓会も伊藤先生にご臨席頂きました。同窓生は59名参加しました。コートダジュールの二次会は先生と30名の同窓生が参加されカラオケや思い出話に花を咲かせていました。

翌日はあいにくの天候でしたが、有志17名がゴルフコンペで楽しいひと時を過ごした様です。

伊藤先生、今回は貴重なお話しを聞かせていただき本当に有難うございました。いつまでもお元気です。

また、36回の皆さん、次回同窓会までお元気にお過ごし下さい。これからも素敵な人生を歩んでいくことを願っております。



↑ウレシヤス小松 2025.11.1(土)

# 令和7年度 小松同窓会総会・ 懇親会レポート

小松同窓会

副会長 駒口 桃子 (高50回)

令和7年7月26日、夏の強い日差しが降り注ぐ中、サイエンスヒルズこまつにて約330名の同窓生が集い、今年度の小松同窓会総会が盛大に開催されました。顔を合わせて旧交を温める貴重な機会となり、会場は開会前から熱気に包まれました。

定刻となり、今年度の幹事学年である高校50回の若杉篤さん、谷口桜さんの明朗な司会で総会がスタート。まず、木村勉副会長(高35回)から開会の言葉があり、長年の同窓会の活動を支える皆様への感謝が述べられました。続いて、和田学小松同窓会会長(高33回)が挨拶に立ちました。創立130周年に向かう新たな一歩となる今年度の重要性について、力強いお言葉をいただきました。

馬場智子校長(高37回)からは、日頃の同窓会からの物心両面にわたる温かいご支援へのお礼とともに、部活動における素晴らしい成績や、活気に満ちた生徒たちの様子など、学校の近況報告がありました。参加者は母校の成長を誇らしく感じ、熱心に耳を傾けていました。



続いて来賓として、衆議院議員の佐々木紀さん(高45回)、小松市長の宮橋勝栄さん(高校50回)、能美市長の井出敏朗さん(高校33回)、県議会議員の福村章さん(高9回)、八田知子さん(高33回)、小松実さん(高35回)、亀田豊さん(高46回)、竹田良平さん(高60回)をはじめ、関東同窓会会長である角英夫さん(高31回)、関西同窓会会長の中山雄二さん(高21回)、金沢同窓会会長の中田浩一さん(高31回)、富山同窓会会長の松田光司さん(高33回)が出席され、会場から盛大な拍手が送られました。

総会議案審議は円滑に進み、令和6年度の決算、令和7年度の予算、そして新副会長に就任した吉柴文悟さん(高51回)、上出浩輔さん(高52回)、高橋達也さん(高校53回)を含む新役員体制など、6つの議案すべてが原案通り承認されました。新役員3人様から力強い挨拶があり、今後の同窓会活動への期待が膨らみました。

小松市長の宮橋さんによる高らかな乾杯の発声で懇親会が始まると、会場は一気に賑やかさを増しました。久しぶりの再会に喜びを分かち合う笑顔があふれ、あちこちで記念撮影が行われていました。世代を超えて交流する姿は、まさに同窓会の醍醐味と言えるでしょう。

恒例の校歌斉唱では、まず県女のワゴンコーラスが敵かに流れた後、参加者全員が立ち上がり、肩を組みながら、力強く小松高校校歌を歌い上げました。会場が一体となり、同窓生の絆が再確認された感動的な瞬間でした。

最後に、関西小松同窓会会長の中山さん、金沢小松同窓会会長の中田さんより、10月に開催される支部総会のご案内を含めたご挨拶と共に、力強い万歳三唱をもって、令和7年度の総会・懇親会は盛会のうちに幕を閉じました。

幹事学年である50回期、副幹事学年である51回期の皆さまには、受付、司会、懇親会サポーターなど、多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

次回は令和8年1月24日(土)にワシヤス小松にて新年会が開催される予定です。より多くの同窓生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



令和7年度 大会出場・成績一覧表

部・同好会名	大会成績	部・同好会名	大会成績															
運動部	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> 女子 800m …………… 3位【北信越大会出場】 3000m …………… 6位【北信越大会出場】 400mH …………… 4位【北信越大会出場】 4×400mR …………… 5位【北信越大会出場】 円盤投 …………… 2位【北信越大会出場】 <b>【石川県高等学校新人体育大会】</b> 男子 100m …………… 2位【北信越大会出場】 5000m …………… 4位【北信越大会出場】 4×100mR …………… 3位【北信越大会出場】 女子 200m …………… 5位【北信越大会出場】 800m …………… 6位【北信越大会出場】 円盤投 …………… 3位【北信越大会出場】 4×100mR …………… 6位【北信越大会出場】 <b>【北信越高等学校新人体育大会】</b> 男子 100m …………… 8位 5000m …………… 8位 女子 800m …………… 7位 円盤投 …………… 3位	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> ソフトテニス 男子 個人戦 …………… 5位【北信越大会出場】 【インターハイ出場】 <b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> ハンドボール 男子 …………… 3位【北信越大会出場】 <b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> カヌー 男子K-2 …………… 3位【北信越大会出場】 <b>【石川県高等学校新人体育大会】</b> 少林寺拳法 女子規定単独演武 …………… 2位【選抜大会出場】																
			運動部	<b>【北信越地区高等学校野球石川大会】</b> 2回戦：小松 2 - 5 金沢 <b>【全国高等学校野球選手権石川大会】</b> 1回戦：小松 13 - 3 大聖寺 2回戦：小松 1 - 5 金沢龍谷 <b>【北信越地区高等学校野球石川大会】</b> 1回戦：小松 5 - 4 金沢桜丘 2回戦：小松 7 - 1 羽咋 3回戦：小松 2 - 1 小松市立 準々決勝：小松 5 - 12 小松大谷 <b>【石川県高等学校野球1年生大会】</b> 予選：小松・小松市立 12 - 3 大聖寺 1回戦：小松・小松市立 1 - 4 金沢														
					水泳	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> 男子 200m自由形 …………… 3位【北信越大会出場】 400m自由形 …………… 6位【北信越大会出場】 女子 200m自由形 …………… 2位【北信越大会出場】 400m自由形 …………… 5位【北信越大会出場】												
							弓道	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> 男子 団体 …………… 2位【北信越大会出場】										
									ボート	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> 男子舵手付クォドルブル …… 2位【北信越大会出場】 女子シングルスカル …………… 1位【北信越大会出場】 【インターハイ出場】 <b>【石川県高等学校新人体育大会】</b> 女子シングルスカル …………… 2位【北信越大会出場】 男子ダブルスカル …………… 1位【北信越大会出場】 女子ダブルスカル …………… 1位【北信越大会出場】 男子舵手付クォドルブル …… 2位【北信越大会出場】 女子舵手付クォドルブル …… 2位【北信越大会出場】								
											バドミントン	<b>【石川県高等学校総合体育大会】</b> 女子 団体 …………… ベスト4【北信越大会出場】						
													文芸	<b>【第49回全国高等学校総合文化祭】</b> 文芸部門(俳句) …………… 出場				
															華道	<b>【Ikenobo 花の甲子園2025】北陸大会</b> …………… 敢闘賞		
																	放送	<b>【NHK杯全国高校放送コンテスト】</b> アナウンス部門 …………… 出場 テレビドキュメント部門 …………… 出場
かるた	<b>【第49回全国高等学校総合文化祭】</b> 競技かるた部門 …………… 出場 <b>【小倉百人一首競技かるた第46回全国高等学校選手権大会】</b> D級 …………… 4位																	

学校職員 委員 委員長 委員 委員長

村 荻 橋 辻 宮 前 細 東  
 戸 野 本 浦 田 川

幸 克 誠 弥 千 次  
 徹 隆 子 憲 治 生 鶴 郎

(高) (高) (高) (高) (高) (高) (高) (高)  
 33 48 45 33 26 35 22

回) 頭) 回) 回) 回) 回) 回)

「天守台」編集委員会

**編集室だより**

新年明けましておめでとうございます。  
 天守台古希70号の念頭所感に西沢さんの令和米騒動裏記、徳田さん4代目青春記、面さん最新サイバーセキュリティ記、桂さん演芸人記。多士済々の松高卒業生記に感動、より一層のご活躍ご祈願を申し上げます。  
 また関東、関西同窓会、各年同窓会の弛まない活動の関係者方々に敬意を表する次第です。今70号は多くのご寄稿頂き増ページに、編集室として感謝申し上げます。これからも「天守台」を宜しくお願い致します。(東)

[同窓会本部] TEL: 0761-21-6330  
 メール: komatsudousoukai@gmail.com  
 ご住所の変更などございましたら、事務局までご連絡いただきますよう、よろしく願いいたします。



同窓会LINEコード

